

リリモテラス公益施設整備 概要

施設の位置づけ

リリモテラス構想
(第5次長久手市総合計画の主要プロジェクト)
 長久手古戦場駅前にまちの新たな顔として「リリモテラス」を整備し
住民の日常の暮らしを支え、訪れる人をもてなす空間を創出する。

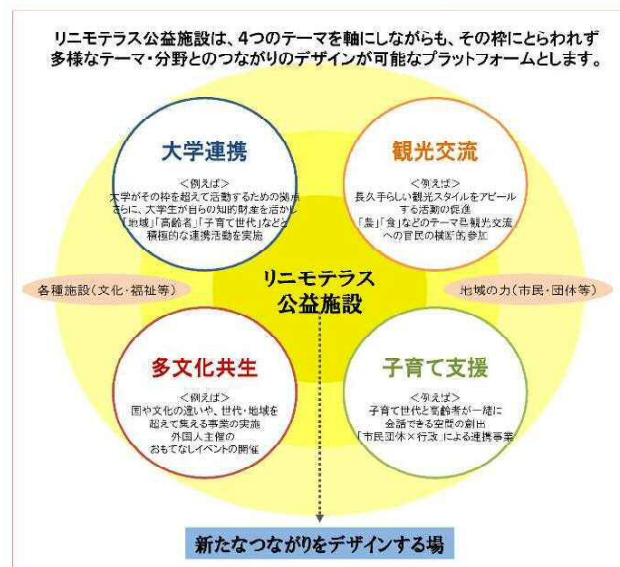
リリモテラス構想の推進拠点が「リリモテラス公益施設」
 本市を特徴づける象徴的な要素として、「大学連携」「観光交流」
「多文化共生」「子育て支援」の4つのテーマが息づく公益施設を計画。



施設コンセプト

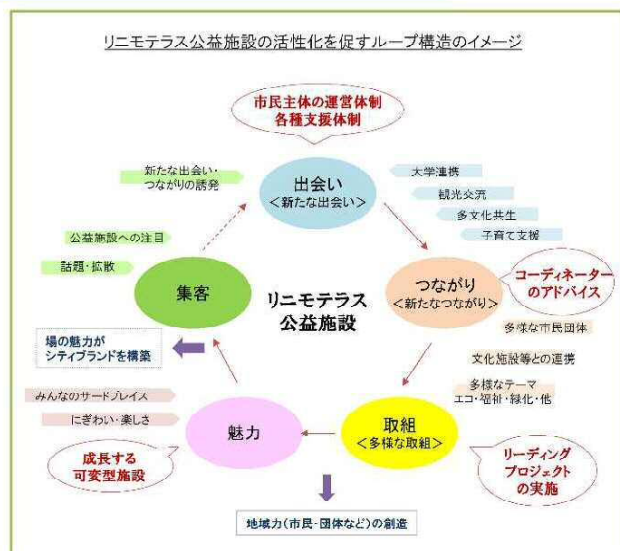
「新たなつながりをデザインする場」

長久手らしさや若者たちの関心事などから抽出できるキーワードを核に、「学生」「社会人」「主婦(夫)」「高齢者」「行政」などがそれぞれに収まることなく、世代を超えて新たなつながりを生み出す場づくりを目指します。



施設コンセプトを推進するための3つのしくみ

- しくみ1** 「出会い」「つながり」を生み出すしくみ
- しくみ2** つながり・連携による「多彩な取組」を促すしくみ
- しくみ3** 場における「つながりの魅力」を継続・成長させるしくみ



3つのしくみを推進役とした「場」の成長構造

施設運営について

リリモテラス公益施設の管理・運営については、「市民主体」の考え方を基本に、多くの全国事例などを参考にしながら、多様な主体とのつながり・連携を可能にする、施設コンセプトに最もふさわしい手法を模索し、公民連携を推進させるため指定管理者制度の導入を図りました。

施設概要

リリモテラス公益施設

開館：令和3年6月1日
 建築面積：870.08㎡
 延床面積：399.14㎡
 延床面積：383.40㎡
 構造：木造平屋建て
 建物高さ：8,113m

当該施設の設計にあたっては、施設コンセプトにも掲げられている4テーマに関連する団体の代表者で構成されたリリモテラス運営協議会とともに主体的な検討を行いました。

【施設の設計】

- ①使い勝手の良さを考え、「木造・平屋」とする
- ②誰でも気軽に立ち寄れるよう、「オープンな空間とする」



開館後の事業

年間来館者数：15,579人（令和3年12月末時点）
 イベント件数：61件（令和3年12月末時点）

- ＜イベント例＞
- ・子ども食堂(愛知淑徳大学)
 - ・町づくりのデザイン公開授業(愛知県立芸術大学)
 - ・模擬患者を体験してみよう(愛知医科大学)

令和3年6月1日に開館しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により大規模なイベントが実施できないなど制約がある中、小規模ながら施設コンセプトの4テーマに即した情報発信機能やイベントや市内に潜在する活用者(プレイヤー)のノウハウを活かしたアート関係イベントやマルシェ等、幅広い内容の事業を展開しています。そのプロセスの中で面識の無かったプレイヤー同士が混じり合ったり、イベントへの参加を通じて本施設を活用する新規プレイヤーが生まれるなど、新たなつながりが生まれる場として活用されています。

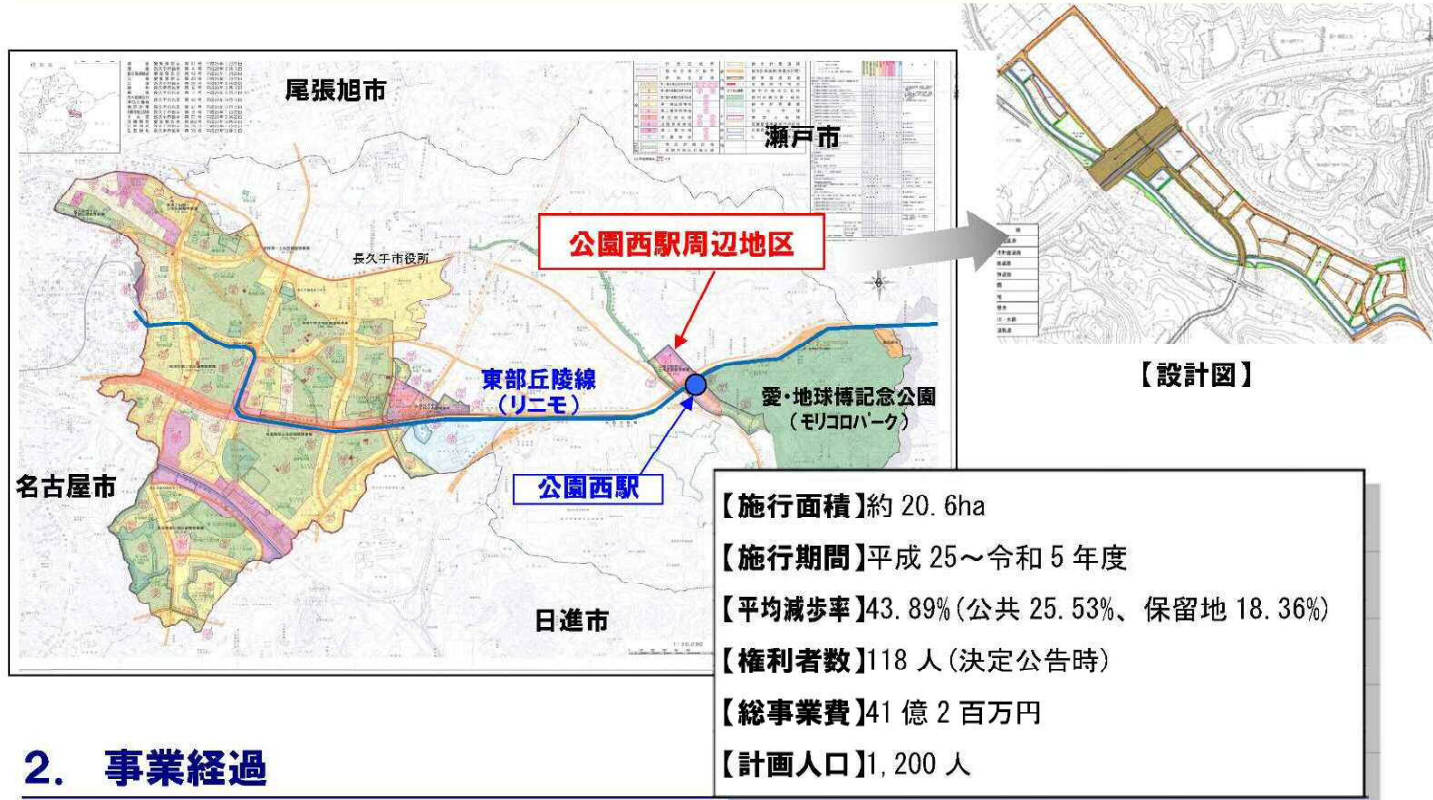
今後の展開

開館してから期間が経過し、施設認知度がある一定程度向上してきたことから、今後の利用者増加が見込まれることが想定されます。今後も新型コロナウイルス感染症の拡大状況を考慮しながら新たなつながりづくり及び市民のチャレンジの場として事業を展開していきます。

名古屋都市計画事業 公園西駅周辺土地区画整理事業の概要

令和3年2月現在

1. 地区概要



2. 事業経過

- 平成 25 年 1 月 都市計画決定 (市街化区域編入、暫定用途地域指定、土地区画整理事業、道路) 公募により商業事業予定者選定 (イケア・ジャパン株式会社)
- 平成 25 年 7 月 事業計画の決定公告
- 平成 26 年 4 月 仮換地指定
- 平成 26 年 12 月 都市計画決定 (用途地域指定、地区計画決定、準防火地域指定)
- 平成 30 年 10 月 事業計画の変更 (第 3 回) の決定公告

3. 事業の目的

本地区は、第 5 次長久手市総合計画ならびに県及び沿線市町で策定したリニモ沿線地域づくり構想を踏まえて、モリコロパークや田園バレー事業の理念を継承した特色ある交流が可能となるような土地利用の誘導を図ることを目的とし、環境に配慮した新しい市街地の形成を目指すこととしている。

そこで、駅への交通結節点機能の強化に加えて、民間活力を活用した商業施設の誘致により、周辺リノベーション施設と連携したにぎわい機能を導入し、多くの人が集まり、交流することができる生活交流拠点の形成を図ることを目的とする。



4. 資金計画

■収入

項目	金額	備考
補助金(国)	598 百万円	
保留地処分金	3,123 百万円	保留地面積 25,218 m ²
市負担金	381 百万円	
合計	4,102 百万円	

■支出

項目	金額	備考
公共施設築造費	1,291 百万円	道路、水路
移転移設費	858 百万円	
その他工事費等	1,953 百万円	
合計	4,102 百万円	

他事業施行分：立体横断施設整備、調整池整備、公園整備、緑地施設整備 (以上まち交)、公共下水道

5. 概略工程

■現在の状況及び今後の見通し

- 進捗率 97% (宅地整備率ベース 令和 2 年度見込み)
- 平成 29 年度にて、地区内建物全て (12 戸) と移転補償契約及び除却完了。
都市計画道路及び駅前広場、商業ゾーン及び中高層ゾーン周辺道路の整備完了、使用収益開始。
- 平成 30 年度以降、順次低層住宅ゾーンの区画道路整備、使用収益開始、並びに保留地分譲。

H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
● 事業計画決定公告	● 仮換地指定	● 商業街区用地引渡		● 都計道・駅広供用開始				● 工事概成	● 換地処分	● 事業完了
				● 住宅街区使用収益開始						
				→ 造成工事・建物移転						

6. 取組み(環境配慮型まちづくり)

【イメージ図】



7. 設計図(土地利用計画図)

